



人本
間職
だ。?

史上最大のTARO展が
やってくる!

展覧会

岡本太郎

2022 7.23 [土] — 10.2 [日]

Okamoto Taro: A Retrospective

[開館時間] 10:00-18:00 (入場は17:30まで) [休館日] 月曜日 (9月19日を除く) ※災害などにより臨時で休館となる場合があります。 [会場] 大阪中之島美術館 4階展示室
[主催] 大阪中之島美術館、公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団、川崎市岡本太郎美術館、NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿 [協賛] NISSHA、三井住友海上
[公式サイト] <https://taro2022.jp> [展覧会公式Twitter] @okamototaro2022 [お問い合わせ] 06-4301-7285 (大阪市総合コールセンター) 事前購入(日時指定券)推奨

一言でいう。人生、即、芸術。

1970年に開催された日本万国博覧会(大阪万博)のテーマ館《太陽の塔》で知られ、今日でも幅広い世代の人々を魅了する芸術家・岡本太郎(1911-1996)。

表現活動が多岐にわたることから「何が本職なのか?」と問われることも多かった太郎の答えは「人間——全存在として猛烈に生きる人間」でした。未知なるものへの不安・怖れに常に果敢に孤独に切り込んでいった彼の表現活動は、小さな枠にとらわれることなく世界に対して「己全体を賭ける」ことであり、人間としての根源的な営みの豊かさを人々に喚起する試みであったといえるでしょう。

代表作はもちろん、これまであまり注目されてこなかった晩年の作品なども紹介しながらその生涯をたどる本展にて、《太陽の塔》だけではなく、岡本太郎の全貌をお楽しみください。



《森の旋》1950年 *1



《重工業》1949年 *1



《傷ましき腕》1936年(1949年再制作) *1



《露店》1937年(1949年再制作) *4



《燃える人》1955年 *3

NYのグッゲンハイム美術館が収蔵する太郎作品が里帰りします!



破壊こそ創造の母だ。



《春》1947年、その後加筆 *2



《イザイホー・久高島(沖繩)》1966年 *1



《鹿踊り・花巻(岩手)》1957年 *1

太郎が撮った写真も登場!



《愛撫》1964年 *1



《明日の神話》1968年 *1

岡本太郎の代表作が大阪に集結!

— 大阪ゆかりの作品を多数紹介! —

大阪で見ることのできる絵画や、パブリックアートの原画のほか、有名なロゴのデザイン画なども展示。太郎が出会った「大阪」を多数の作品や資料からご紹介します。



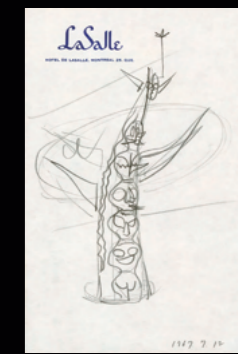
《みつめあう雙(レリーフ)》1990年 *1



《娘と犬》1953年 *5



《近鉄パファロースマーク》1959年 *2



《太陽の塔ドローイング》1967年 *2



《近鉄パファロースマーク(当初案)》1959年 *2

◎観覧料(税込)

一般 1,800円(1,600円)/ 大学・高校生 1,400円(1,200円)

事前購入(日時指定券)推奨

※日時指定制(30分ごと)を導入しています。会場でも当日(時間指定)券をご購入いただけますが、混雑状況により入場をお待ちいただく場合や、当日券の販売が終了している場合があります。

※カッコ内は20名以上の団体料金。20名以上の団体鑑賞をご希望の場合、大阪中之島美術館公式ホームページから団体受付フォームにてお問い合わせください。※日時指定券の販売は6月21日(火)からご観覧日前日までです。※予約不要の当日券(数量限定・時間指定)も会場でご購入できます。※中学生以下は無料。※障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)は当日料金の半額(要証明)。※一般以外の料金で観覧される方は証明できるものを当日ご提示ください。※本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。※展示室内が混雑した場合は、入場を制限する場合があります。※今後、地域の新型コロナウイルス感染状況などを踏まえ、展覧会の会期・開館時間等を変更させていただく場合があります。ご来館の際には展覧会公式サイト等で最新の情報をご確認ください。※ご来館時は、マスクの着用など、感染防止対策にご協力ください。※チケットなど詳細は展覧会公式サイトで順次お知らせします。

【相互割引】— 本展観覧券(半券可)の提示で、5階で開催される開館記念展「みんなのまち 大阪の肖像」[第2期] 2022年8月6日(土)~10月2日(日)の当日券を300円引きで2階チケットカウンターにてご購入いただけます。(1枚につき1名様有効。チケット購入後の割引および他の割引との併用は不可)

【チケットの主な販売場所】大阪中之島美術館公式ホームページ(オンライン販売)、ローソンチケット(Lコード:56700[7月23日(土)~8月31日(水)入場分]、56701[9月1日(木)~10月2日(日)入場分])、ローソンおよびミニストップ各店舗 ※チケット購入時に手数料がかかる場合があります。



◎講演会・関連イベント情報

1,2,3,全て

会場:大阪中之島美術館 1階ホール

参加無料(要本展観覧券チケット)・事前申込制

※各種イベントは決定次第、大阪中之島美術館公式ホームページでお知らせします。

1 トークイベント 記念講演『岡本太郎という生き方』

岡本芸術とはなんだったのか? 岡本太郎記念館の館長でもあり、身近に太郎を見てきた平野暁臣さんが、「岡本太郎という生き方」を通して語ります。

◎日時:2022年7月23日(土) 14:00-15:30
講演者:平野暁臣
(空間メディアプロデューサー/岡本太郎記念館館長)

2 トークイベント 講演会『岡本太郎の青春—パリ』

設立準備室時代から川崎市岡本太郎美術館に勤め、現在は岡本太郎記念館主任研究員である大杉浩司さんから、岡本太郎の青春時代を中心に、作品についてお話頂きます。

◎日時:2022年8月7日(日) 14:00-15:30
講演者:大杉浩司(岡本太郎記念館主任研究員)

3 トークイベント 『呪力はそこにあるか?』 鼎談・鴻池朋子×山下裕二×石倉敏明

岡本太郎は縄文や祭りなどに美を見出しました。岡本芸術に潜む「美の呪力」をアーティスト、美術史家、人類学者の三人がそれぞれの視点で語ります。

◎日時:2022年9月3日(土) 14:00-15:30
登壇者:鴻池朋子(アーティスト)、山下裕二(美術史家)、
石倉敏明(人類学者)
モデレーター:大下裕司(大阪中之島美術館学芸員)

◎音声ガイド

俳優の阿部サダヲさんが、ナビゲーターに初挑戦!

人間・岡本太郎とは何者か… 画家の言葉を交えながら、その真の姿に迫ります。



この度、展覧会 岡本太郎の音声ガイドナビゲーターを務めさせて頂くことになりました、阿部サダヲです! 「音声ガイドナビゲーター」というお仕事は初めてですが、誰もが知っているあの「太陽の塔」が建ったのが、1970年。私が生まれたのも1970年! 同い年! ライバル! やらせていただくかなと… 資料を頂くと、知らない事もたくさんありました。その知らなかった岡本太郎を皆さまに分かりやすくお伝え出来るよう頑張ります! よろしくお祈りします。

●会場レンタル版
1台600円(税込)

●アプリ配信版
配信料金730円(税込)
※会場限定トラック等をすべて含む
完全版、配信期間限定

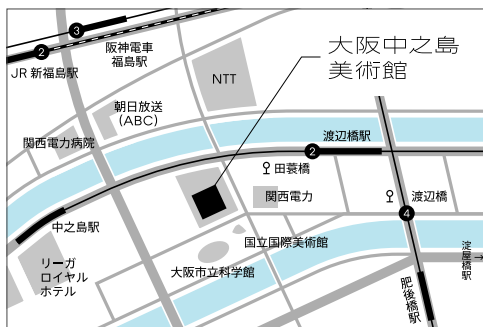
◎アクセス 電車・バスでお越しの場合

【電車】

- ◎京阪一中之島線渡辺橋駅(2番出口)より南西へ徒歩約5分
- ◎Osaka Metro一四つ橋線肥後橋駅(4番出口)より西へ徒歩約10分
- ◎JR一大阪環状線福島駅/東西線新福島駅(2番出口)より南へ徒歩約10分
- ◎阪神一福島駅より南へ徒歩約10分

【バス】

- ◎大阪シティバス—JR大阪駅前より53号・75号系統で「田裏橋」下車、南西へ徒歩約2分
- ※お帰りのJR大阪駅方面最寄バス停は「渡辺橋」になります。



【問い合わせ】

大阪市総合コールセンター/
06-4301-7285 (年中無休:午前8時~午後9時)

大阪中之島美術館
OSAKA MUSEUM OF MODERN ART

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-1
<https://nakka-art.jp>



【東京展】2022年10月18日[火]~12月28日[水] 東京都美術館 / 【愛知展】2023年1月14日[土]~3月14日[火] 愛知県美術館

【中面】 図版 / 川崎市岡本太郎美術館蔵 *1、岡本太郎記念館蔵 *2、東京国立近代美術館蔵 *3、ソロモン・R・グッゲンハイム美術館蔵(ニューヨーク) *4、株式会社大林組蔵 *5

【表4】 背景図版 / 《雷人》1995年(未完) *2、《駄々っ子》1951年 *1、《森の掟》1950年 *1、《にらめっこ》1978年 *1、《愛撫》1964年 *1

【表紙】 図版 / 《森の掟》1950年 *1、《太陽の塔》1970年 万博記念公園、《にらめっこ》1978年 *1、《ノン》1970年 *1、《明日の神話》1968年 *1、《若い太陽の塔》1969年 *1

◎岡本太郎記念現代芸術振興財団、【表紙】岡本太郎ポर्टレート 撮影:橋本信一郎 ©主婦と生活社